

会津若松地方広域市町村圏整備組合

令和4年度 ごみ減量実施計画の進捗状況

令和5年7月

1) ごみ減量実施計画の進捗状況について

1 ごみ減量実施計画の概要について

(1) 目的

環境負荷の低減に向けた資源循環型社会の構築を目指し、構成市町村の住民、事業者、行政がおこなうべき具体的なごみ減量の取組、数値目標を設定し、ごみ減量とリサイクルを推進することを目的として令和2年3月に策定したものです。

(2) 主なごみ減量の取組

目標を達成するためには、効率的かつ効果的なごみ減量の施策を推進することが必要であり、ごみの排出状況と課題を踏まえながら取組んで行くものです。

- ① 紙ごみのリサイクル 《重点施策》
- ② 生ごみの減量 《重点施策》
- ③ ごみの分別、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

(3) 計画期間 令和2年度から令和7年度まで

(4) ごみ排出量の目標値及び各市町村の施策

① 表-1 数値目標値

項目	基準年 (平成30年度)	目標年度 (令和7年度)	削減量	削減率 (%)
総排出量(t)	74,179	58,328	△15,851	△21.4
1人1日当たりの排出量(g)	1,094	938	△156	△14.3
燃やせるごみの排出量(t)	61,123	44,909	△16,214	△26.5
燃やせるごみの1人1日当たりの排出量(g)	902	722	△180	△20.0
リサイクル率(%)	13.9	21.3	7.4	—

※参考 1人1日当たりの排出量 全国平均 918g (平成30年度 一般廃棄物処理実態調査)

リサイクル率 全国平均 19.6% (平成30年度 一般廃棄物処理実態調査)

② 各市町村の主な施策

- ・ 広報誌、住民説明会等による分別・リサイクルの周知・啓発活動の強化
- ・ 小型家電、古着等の集団回収、イベント回収の推進
- ・ 子ども服等の古着類のリユースの推進
- ・ 事業者への分別・リサイクル徹底の指導
- ・ 福島県の食品ロス推進事業の周知
- ・ 家庭ごみの有料化の検討

(5) 進行管理

ごみ減量の取組状況や目標値の達成状況などを定期的にチェック・評価し、施策の改善を行い、Plan(計画)、Do(施策の実行)、Check(点検)、Act(見直し)のPDCAサイクルの手法により実施するものです。

2 令和4年度 ごみ減量実施計画の進捗状況について

(1) 施策の実施状況

生ごみの減量について、多くの市町村において検討中との回答があり、設置場所の確保や周知及び、助成金の導入等について研究を継続しているとの回答があった。

また、ステーションでの立会指導の実施や事業者への訪問による啓発及び搬入物検査など踏み込んだ対応をした市町村もあった。

集団回収については、一部市町村においてコロナ禍の影響による見送りもあったが、おおむね計画通り実施できている状況であった。

(2) 減量化の進捗状況 P 4 ~ 6

① 総排出量、燃やせるごみの排出量

ごみ全体の排出量では、緩やかに減少しているものの、集団回収の実績が減少しており、コロナ禍や少子化に起因する取組みの減少が見受けられる。家庭系の減少については、減量の取組により減少したものと考えられる。事業系については観光需要の回復に伴い増加したものと思われるが、令和2年度から横ばい傾向にあるため、取組が停滞しているものと考えられる。

また、燃やせるごみについては、1人1日当たりの排出量が減少となり、全体の排出量についても減少傾向となっている。

経年的には減少傾向が続いているが、計画排出量には達していない。

② リサイクル率

平成30年度、令和元年度、令和2年度と減少し、資源化量の実績増に伴い令和3年度は増加に転じたが、令和4年度においては再度減少しているため、さらなる取組の強化が必要と思われる。

(3) ごみ質検査結果 P 6

ごみ減量・リサイクルに活用するため、これまでの6組成の検査から20項目に細分化し検査を実施している。(令和2年度から実施)

検査結果においては、再生可能な資源物の混入割合が、紙・布類で45.8%、ビニール類で4.6%、合計で約50.4%が含まれている結果となった。

3 各市町村の主な実施状況について

- (1) こども服のおさがりボックス設置、小型家電・古着のイベント回収実施
- (2) 職員によるごみステーションでの立ち合い、排出確認・啓発の実施
- (3) 庁内のごみの減量化推進
- (4) 生ごみ減量についてリサイクル機器等購入助成金の導入
- (5) ごみ情報誌、事業系ごみのガイドブックの作成・配布
- (6) 事業系ごみの搬入検査や事業者への訪問による啓発

4 今後の方向性について

(1) 目標達成に向けた取組 ≪①、② 重点目標≫

区分	住民	事業者	行政
①紙ごみのリサイクル	雑がみ・段ボール・新聞・雑誌の分別徹底とリサイクル	事務文書や紙類のリサイクル、ペーパーレス化、過剰包装の抑制	雑がみの分別・紙ごみのリサイクルに対する周知・啓発活動
②生ごみの減量	生ごみの水切りの徹底、コンポスト容器等の活用、食品ロスの削減	3010運動 [*] 呼びかけ、売れ残り食品の適正なリサイクル	コンポスト等の導入助成の拡大、福島県の食品ロス推進事業の周知
③ごみの分別、3Rの推進	紙類・プラスチック製容器包装の分別、集団回収への参加	リサイクル業者の活用、商店街・工業団地等の資源物の共同回収	リサイクルに係る新しい分別品目の検討、分別徹底に関する周知・啓発

※宴会時の最初30分と最後の10分は料理を楽しみ、美味しく食べきる。

(2) 令和5年度 各市町村の主な施策

- ・リユースボックスの増設及び設置場所の検証
- ・ごみ情報誌の発行継続
- ・ごみの組成分析による減量化への検証
- ・コンポスト等の利用促進継続や助成金の増額検討
- ・小型家電・古着回収イベントの継続
- ・分別収集・再資源化の地区説明会及び個別訪問による啓発の継続や出前講座の実施
- ・雑がみ再資源化の強化
- ・町内会との協働によるごみステーションへの立ち合い、排出確認の実施
- ・事業者との意見交換による実態の把握及び啓発

(3) 令和5年度 環境センターの施策

- ・事業者向けごみ減量化チラシの配布
- ・施設見学での減量化等啓発継続
- ・広報誌での減量化等啓発継続

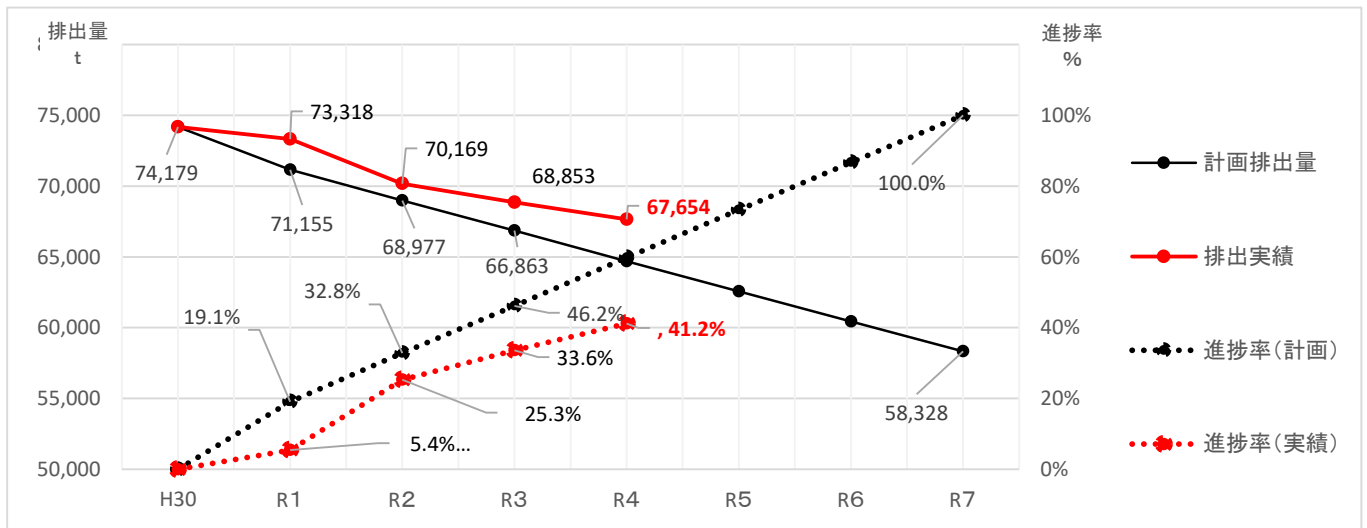
【減量化の進捗状況】

① 総排出量

単位：t

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)	
計画排出量	74,179	71,155	68,977	66,863	64,696	62,558	60,435	58,328	
内訳	家庭系	50,248	48,721	47,412	46,155	44,843	43,561	42,288	41,032
	事業系	21,456	19,455	18,591	17,735	16,882	16,028	15,179	14,331
	集団回収	2,475	2,979	2,974	2,973	2,971	2,969	2,968	2,965
	削減目標 ^{※1}	0	△ 3,024	△ 5,202	△ 7,316	△ 9,483	△ 11,621	△ 13,744	△ 15,851
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	19.1%	32.8%	46.2%	59.8%	73.3%	86.7%	100.0%	
実績	74,179	73,318	70,169	68,853	67,654				
内訳	家庭系	50,248	50,030	48,949	48,387	47,142			
	事業系	21,456	21,293	18,894	18,630	18,862			
	集団回収	2,475	1,995	2,326	1,836	1,650			
	削減実績 ^{※1}	0	△ 861	△ 4,010	△ 5,326	△ 6,525			
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	5.4%	25.3%	33.6%	41.2%				
取組の結果	実施計画では、削減目標を△9,483 tとしていたが、削減実績は、△6,525 tであった。進捗率は、実績が41.2%で、目標とする59.8%には、18.6%届いていない。 前年度と比較し家庭系(△1,245 t) 事業系(232 t)となった。家庭系の減少については、減量の取組により減少したものと考えられる。事業系については観光需要の回復に伴い増加したと思われるが、令和2年度から横ばい傾向にあるため、取組が停滞しているものと考えられる。集団回収については、実施回数の減・中止のため、回収量が少なくなった。								

【グラフ-1 総排出量及び削減量】



② 1人1日当たりの排出量

単位：g

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画排出量	1,094	1,064	1,044	1,025	1,004	982	960	938
削減目標 ^{※1}	0	△ 30	△ 50	△ 69	△ 90	△ 112	△ 134	△ 156
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	19.2%	32.1%	44.2%	57.7%	71.8%	85.9%	100.0%
実績	1,094	1,091	1,067	1,070	1,067			
削減実績 ^{※1}	0	△ 3	△ 27	△ 24	△ 27			
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	1.9%	17.3%	15.4%	17.3%			
取組の結果	実施計画では、削減目標を△90 gとしていたが、削減実績は△27 gであった。進捗率は、実績が17.3%で、目標とする57.7%には、40.4%届いていない。							

※1 削減量；平成30年度（基準年）と計画及び実績の差

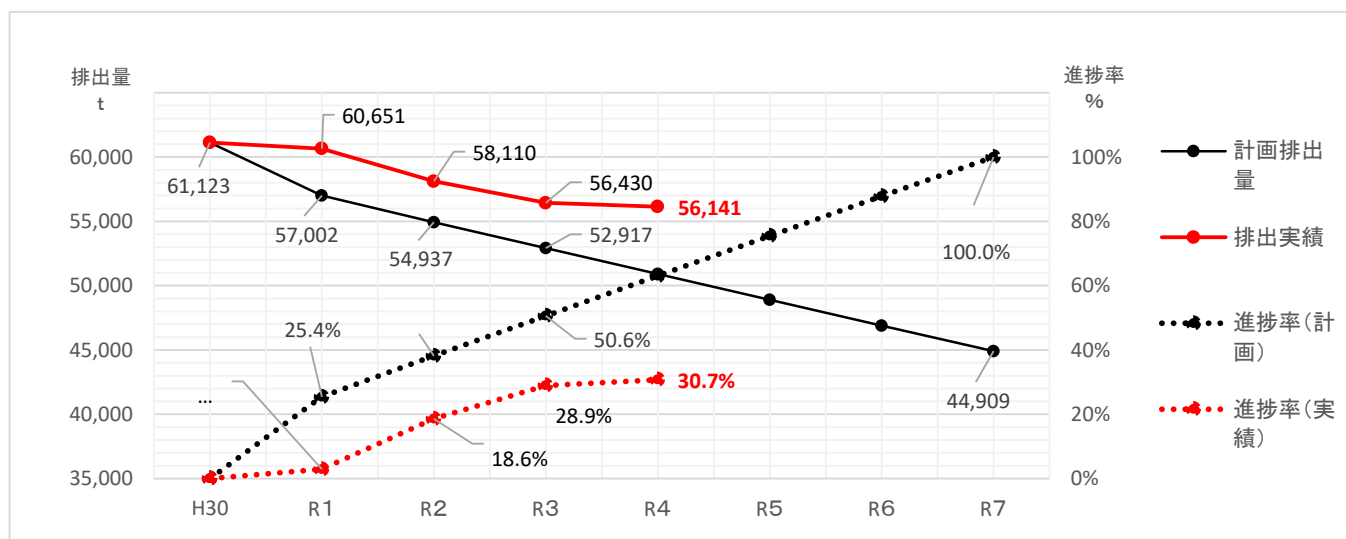
※2 進捗率；令和7年度の計画削減量を「100」とした場合の当該年度削減の計画及び実績の割合

③ 燃やせるごみの排出量

単位：t

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画排出量	61,123	57,002	54,937	52,917	50,900	48,888	46,884	44,909
内訳								
家庭系	40,084	37,964	36,759	35,591	34,424	33,262	32,103	30,973
事業系	21,039	19,038	18,178	17,326	16,476	15,626	14,781	13,936
削減目標 ^{※1}	0	△ 4,121	△ 6,186	△ 8,206	△ 10,223	△ 12,235	△ 14,239	△ 16,214
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	25.4%	38.2%	50.6%	63.1%	75.5%	87.8%	100.0%
実績	61,123	60,651	58,110	56,430	56,141			
内訳								
家庭系	40,084	39,920	39,462	38,011	37,491			
事業系	21,039	20,731	18,468	18,419	18,650			
削減目標 ^{※1}	0	△ 472	△ 3,013	△ 4,693	△ 4,982			
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	2.9%	18.6%	28.9%	30.7%			
取組の結果	<p>実施計画では、削減目標を△10,223 tとしていたが、削減実績は、△4,982 tであった。進捗率は、実績が30.7%で、目標とする63.1%には、32.4%届いていない。 前年度との比較で家庭系(△520 t)事業系(231 t)となり、事業系の取組停滞がみられる。燃やせるごみの減量は進んでいるものの、目標値からは乖離しているためさらに取組を強化していく必要がある。</p>							

【グラフ-2 燃やせるごみの排出量及び削減量】



④ 燃やせるごみ1人1日当たりの排出量

単位：g

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画排出量	902	852	832	811	790	768	745	722
削減目標 ^{※1}		△ 50	△ 70	△ 91	△ 112	△ 134	△ 157	△ 180
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	27.8%	38.9%	50.6%	62.2%	74.4%	87.2%	100.0%
実績	902	903	884	877	886			
削減実績 ^{※1}		1	△ 18	△ 25	△ 16			
進捗率(%) ^{※2}	0.0%	-0.6%	10.0%	13.9%	8.9%			
取組の結果	<p>実施計画では、削減目標を△112 gとしていたが、削減実績は、△16 gであった。進捗率は、実績が8.9%で、目標とする62.2%には、53.3%届いていない。</p>							

※1 削減量；平成30年度（基準年）と計画及び実績の差

※2 進捗率；令和7年度の計画削減量を「100」とした場合の当該年度削減の計画及び実績の割合

⑤ リサイクル率

単位：%

項目	H30 (基準年)	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7 (目標年)
計画率①	13.9%	17.6%	18.1%	18.7%	19.3%	19.9%	20.6%	21.3%
実績②	13.9%	12.8%	12.7%	13.9%	13.1%			
②-①		△ 4.8%	△ 5.4%	△ 4.8%	△ 6.2%			
取組の結果	リサイクル率は、年々減少傾向にあったところ、令和3年度に一時増加がみられ、令和4年度には再度減少に転じているため、取組の強化が求められる。計画率は19.3%のところ実績は13.1%であり△6.2%少なく目標に達していない。							

※ 令和4年度；環境センターへの搬入実績及び構成市町村からの調査回答を基に算出。

【ごみ質検査結果】

① ごみの組成

単位：%

種別	H30 (基準年)	R 3	R 4
紙・布類	53.3	51.7	57.7
内訳			
段ボール		2.9	3.4
新聞・ちらし		3.0	14.2
雑誌・包装紙 コピー紙		18.5	3.1
空き箱・飲料容器		7.6	17.9
ティッシュ・ キッチンペーパー		6.9	2.9
紙おむつ		0.7	4.3
その他の紙・布類		5.6	4.7
衣類		6.5	7.2
ビニール・樹脂等	25.7	21.9	20.9
内訳			
容器包装類		15.9	4.6
ゴム皮類		1.0	1.2
その他のプラ		5.0	15.1
木・竹・わら	5.6	8.8	7.8
厨芥類	10.4	7.1	10.6
その他	5.0	10.5	3.0

② 3成分

単位：%

種別	H30 (基準年)	R 3	R 4
水分	48.3	38.2	54.2
可燃分	47.0	53.5	41.7
灰分	4.7	8.3	4.1

令和4年度 ごみ質検査結果の検証

ごみ質検査結果で、再生可能な資源物が混入していた。紙・布類で45.8%（段ボール、新聞紙ほか）、ビニール類が4.6%（容器包装類）であり、ごみ全体の50.4%（※約28,000 t）に及ぶ資源物が含まれていた。

ごみの組成では、紙・布類の排出割合が約半分を占める。また、3成分では、水分が増加している。可燃分が減少したことにより相対的に増加したと思われるが、水切りの取組は継続して必要となる。

※ 28,000 tは、令和4年度の燃やせるごみの排出量（56,141 t）に、ごみ質検査の割合（45.8+4.6=50.4%）を乗じて算出。（100 t未満切り捨て）

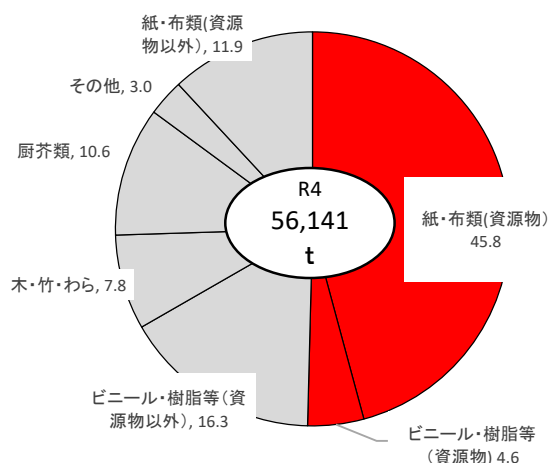
※ 生ごみの水切りの効果

一般的に生ごみの約80%は水分で、水切りをすることにより、重量の約8~10%を減らすことが出来ると言われています。令和4年度で、595 tのごみの削減が見込まれます。

595 t = 56,141 t × 10.6%（厨芥類の割合）× 10.0%（削減割合）

【グラフー3 令和4年度 ごみの組成】

単位：%



【グラフー4 令和4年度 ごみの3成分】

単位：%

